

平成 23 年度(2011年度) 事業計画書

財団法人 高度映像情報センター

(A V C C)

自 平成 23 年 4 月 1 日
至 平成 24 年 3 月 31 日

はじめに

「自分さえ良ければいい」という考えを排し“3.11からの再生”に取り組みます

この度の東北地方太平洋沖地震において被災されました多くのみなさまに衷心よりお見舞いを申し上げます。お陰様で当財団並びに職員に直接的な被害はありませんでしたが、防災通信システムの設計監理を行っておりました自治体が被災され、当該システムが壊滅的なダメージを受けました。また3.11夕刻より翌朝まで、都心の帰宅困難者向け”AIDステーション”として震が関ナレッジスクエア(KK2)を開放し、職員が徹夜で、安否確認支援、災害情報の提供、休憩場所飲食の提供等を行い、約300名の方の支援をさせていただきました。この経験を通じて、自治体として地域社会としてBCP(事業継続計画)が未整備であり、官民連携も機能していない事が浮き彫りになりました。

8.15玉音放送に呆然とし、瓦礫の中から戦後復興と物質的繁栄を遂げた社会が、3.11千年に一度といわれる天災と人災が重なり脆くも崩壊しました。未曾有の国難の中で、私達は組織としても個人としても「自分さえ良ければいい」という考えを排し、社会全体で痛みを分かち合いながら“3.11からの再生”に取り組んでいかなければなりません。地方自治体の情報化計画策定や情報基盤整備を支援してきた当財団の役割は更に大きく、職員一同気を引き締めて居ります。

税金に依らない民設民営の“公民館”震が関ナレッジスクエア(KK2)

2008年春に開設したKK2は、ご協賛いただいている皆様に支えられ、税金に依らない民設民営の公民館として活動しています。東京都心の官民結節点である震が関・虎ノ門地区で、産学官の連携・交流・学びの推進、ビジネスパーソンへの学習・文化・交流の機会の提供など、“新しい公共”の一翼を担う社会教育プログラムを進めてまいります。

「物をつくる前に人をつくる」(松下幸之助氏)という言葉に代表されるように、かつて企業は、従業員の人材育成(しごと力向上)を社会的使命として取り組んできました。しかし昨今、企業はその使命を放棄し、個人や高等教育機関にキャリア教育職業教育の役割を転嫁し、それぞれの自己責任に帰す傾向が進んでいます。一方、高等教育機関を卒業しても就業できない若者が急増し、経験豊かな多くの高齢者が能力と時間を持って余しています。“3.11からの再生”に、若者のエネルギーを投入し、高齢者には様々な社会の課題解決を担っていただき、老若男女問わず働くことを通して学び自らのしごと力を磨く、という正のスパイラルを取り戻すことが大切です。

KK2は、若者やビジネスパーソンに必要な知識、スキル、コンピテンシーをいつでもどこでも学べる環境を提供し、しごと力向上のお手伝いをし、キャリアを応援したいと考えております。「共に考え、共に学び、共に担う」社会の実現に向け、ささやかなではありませんが取り組んでまいります。皆さまのご参加とご支援をよろしくお願い申し上げます。

普及啓発事業

(1) 霞が関ナレッジスクエア (KK2) 事業

1. 運営者

KK2 は、財団法人高度映像情報センター（以下、AVCC）が運営主体として事業を推進し、遠隔教育プラットフォームの運用については株式会社メディアリンクがサービス提供を行います。

2. KK2 の生い立ち

KK2 は、官と民の結節点となる霞が関官庁街の入口に PFI (Private Finance Initiative) 手法により開発された「霞が関コモンゲート」にあります。文部科学省、金融庁、会計検査院等中央省庁と、帝人株式会社をはじめとする民間企業が、一つ屋根の下にオフィスを構える我が国で初めての新しいスタイルの街です。

また、「千代田区霞が関」という場所は、一丁目から三丁目まで 0.48 平方キロメートルの面積にたった 5 世帯 9 人が住む（住民基本台帳 2009 年 7 月 1 日）という都心の過疎地域です。一方で、昼間人口は 5 万 9210 人（2005 年国勢調査）と、極端な昼夜の人口格差となっており、いわゆる夜間過疎のこの地域には、公民館・図書館・博物館・学校といった公共施設が一切整備されていません。

KK2 は、新しい街「霞が関コモンゲート」の言わばシンボルとして誕生、PFI 事業者（霞が関七号館 PFI 株式会社）により、二か所に分かれた計約 100 坪のスペースをスケルトンで提供を受け、自主財源により内装を含む設備インフラを整備、公の税に依らない「民設民営」の公民館として 2008 年 1 月 4 日オープンしました。

3. KK2 の運用を支えるメンバー制度とレンタルスペース事業

事業の運営は、KK2 事業にご協賛いただくメンバー（民間企業、業界団体、大学専門学校、NPO 法人、個人等）様から頂戴する協賛会費と、レンタルスペース（①スタジオ：セミナー/イベント/ネット中継収録、②エキスパート倶楽部：交流カフェ/交流パーティ、③ラウンジ：セカンドオフィス/テレビ会議等）の施設貸し出し料を財源としています。

4. KK2のミッション

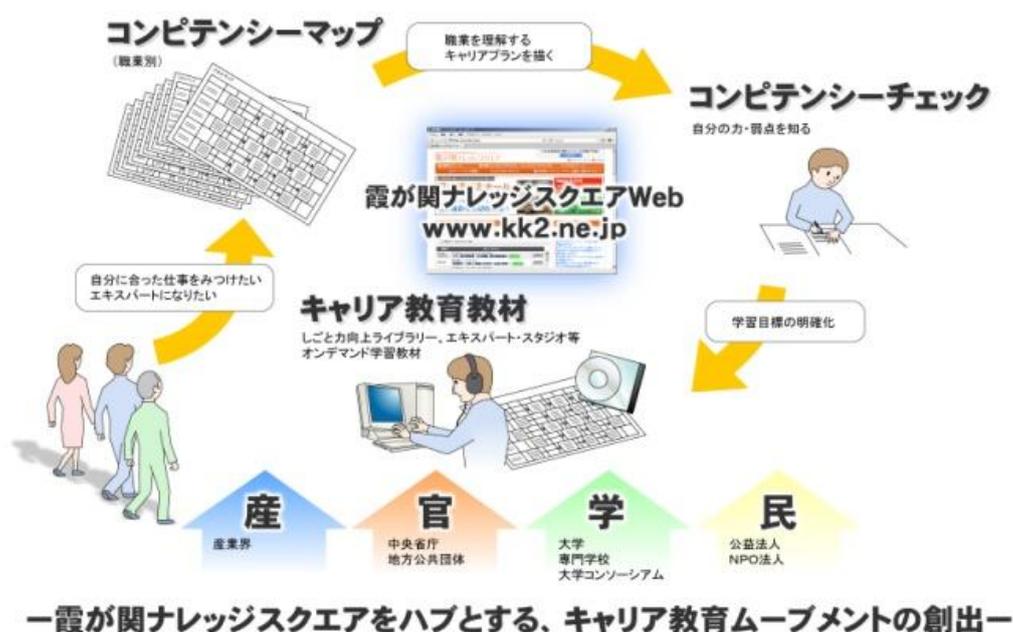
KK2は、大きく4つのミッションを掲げて活動をしています。

- 1) しごと力向上の取組み ～キャリア応援プログラム～
- 2) 都心で働く人々の交流ネットワーク作り ～KK2文化プログラム～
- 3) 産学官民交流による”知”の創造 ～イノベーションプログラム～
- 4) 遠隔教育プラットフォームの普及 ～ライブ配信と学習ライブラリの拡充～

1) しごと力向上の取組み

～キャリア応援プログラム～

KK2は、ビジネスパーソンのしごと力（しごとに役立つさまざまな力）の向上のため「キャリア応援プログラム」を提供しています。グローバル化が進む現在、自分とは異なる文化、価値観と共存・共栄していくためのコンピテンシー（高い成果を生み出す能力・行動特性）の発見とその学習環境の整備を進めています。



「しごと力」とは

KK2では、社会に貢献している人、社会で活躍する人、優れた仕事をする人が備える能力について調査研究を行い、その総称を「しごと力」と名付けました。

「しごと力」は、三つのコンピテンシーFeel（人間関係力）、Think（問題解決力）、Act（実行力）と、Knowledge（知識・理解）、Skill（技能）の五項目に大別され、更に17カ

カテゴリに細分類し明文化しました。KK2が「キャリア応援プログラム」「KK2 ライブセミナー」等で提供する教育プログラムは、すべて下記のカテゴリで整理分類し提供していきます。

KK2 しごと力 カテゴリ

Ⅰ コン ピ テ ン シ ー	Ⅰ-1 Feel : 人間関係力	Ⅰ-1-(1) 自己認識力
		Ⅰ-1-(2) 感情マネジメント力
		Ⅰ-1-(3) 共感力
		Ⅰ-1-(4) コミュニケーション力
	Ⅰ-2 Think : 問題解決力	Ⅰ-2-(5) 状況把握力
		Ⅰ-2-(6) 原因究明力
		Ⅰ-2-(7) 選択決定力
		Ⅰ-2-(8) リスク分析力
	Ⅰ-3 Act : 実行力	Ⅰ-3-(9) 実行力
Ⅱ 知 識 ・ 理 解	Ⅱ Knowledge : 知識・理解	Ⅱ-(10) ビジネス
		Ⅱ-(11) 法律
		Ⅱ-(12) 健康
		Ⅱ-(13) 生活・文化
Ⅲ 技 能	Ⅲ Skill : 技能	Ⅲ-(14) ビジネスマナー
		Ⅲ-(15) ビジネススキル
		Ⅲ-(16) IT スキル
		Ⅲ-(17) マネジメントスキル

Ⅰ コンピテンシー

社会に貢献する、社会で活躍する、良い仕事をする人達の、考え方や行動特性いわゆるコンピテンシーについて、大学専門学校に於て学習機会は非常に少なく、就業後の企業内教育訓練、OJT を中心とする人材育成においても、コンピテンシーを育む機会は減少しています。KK2では、コンピテンシーをFeel（人間関係力）、Think（問題解決力）、Act（実行力）に大別し、更に9カテゴリに分類し分かりやすく定義し、コンピテンシーについて考え、学び、気付く教材コンテンツの提供を行っています。

Ⅰ-1 Feel : 人間関係力

「人間関係力」とは、人とよりよい信頼関係を結ぶことができる力です。信頼関係を結ぶためには、人間の根本のレベル、感情面のやりとりから捉える必要があります。

人間関係力は「自己認識力」「感情マネジメント力」「共感力」「コミュニケーション力」

の4つのカテゴリに細分化しました。

I-1-(1) 自己認識力

- ① 自分におきている複数の感情を認識することができる。
- ② 自分におきている感情をもたらしている原因を認識することができる。

自分の感情、気持ちを理解することにより、マイナスな感情を方向転換（マネジメント）することができます。また、それをきっかけに相手の気持ちを想像することができるため、相手を思いやることができるようになります。

I-1-(2) 感情マネジメント力

- ③ 自分におきている感情を理解した上で、建設的で冷静な判断・選択をすることができる。
- ④ くじけそうなときに自分を奮い立たせることができる考え方（楽観主義）ができる。

感情を相手にぶつけて怒ったり、逆に自分の中に抑制させ落ち込んだりするのではなく、自分の感情を理解することにより、冷静で適切な対応をとることができます。怒りなど不快な感情は、何か問題があるからです。感情のマネジメントによって冷静になり、本質的な問題の解決に進むことが大切です。

I-1-(3) 共感力

- ⑤ 自分の視点ではなく、相手の視点に立って、相手の考えや感情を理解することができる。
- ⑥ 相手の感情を理解するために、非言語的理解ができる。

相手を大切にするという気持ちが根底にあると、信頼が得られやすく、オープンに理解し合うことが容易になります。人に自分を理解してもらい、思いやりのある態度を示してもらったうれしさは誰もが経験しています。共感力は人間関係の鍵ともいえます。

I-1-(4) コミュニケーション力

- ⑦ 人の多様な意見、価値観を認めることができる。
- ⑧ はっきりと自己表明をすることができ、誤解の少ない人間関係をつくることができる。
- ⑨ 相手の感情を把握して、伝えたいことが間違えなく伝わるための話の構成を組み立てることができる。

コミュニケーションは、相手の話を聞く部分と、自分の話をしっかりと表明する部分から成り立ちます。よりよいコミュニケーションのために、相手に共感することがひとつの重要な道具とすると、率直に自分の考えと気持ちを相手に伝えることができることは、もうひとつの重要な道具ともいえます。

I-2 Think : 問題解決力

仕事はもちろん、日常生活でも日々私たちは大小さまざまな問題に直面します。この次から次へとおこる問題を対処していく問題解決力はとても重要になります。

問題解決力は「状況把握力」「原因究明力」「選択決定力」「リスク分析力」の4つの項目に細分化しています。

I-2-(5) 状況把握力

- ① 先入観や不確かな情報にとらわれず、状況を正しく認識できる。
- ② 事実を得るために、できるだけ正確な情報を入手することができる。
- ③ 収集した情報をもとに課題を整理し、想定できる対策を明確にすることができる。

問題解決の第一歩は、何が問題で、何が課題なのかを明確に確認すること、つまり「問題に関する状況把握」が重要です。できるだけ正確な情報を収集できる方法を検討し、問題を構成する要素を明確にすることが大切です。

I-2-(6) 原因究明力

- ④ 問題の内容を整理、分析し、キーとなる原因の絞り込みができる。
- ⑤ 問題の原因と想定されるものの裏付けをとることができる。

問題が発生した時、なぜその問題が起きたのかという原因を突き止めなければ、解決の糸口は見つかりません。専門的な知識だけではなく、どこに問題の原因があるのかを突き止める思考の手順を理解し、次のステップである再発防止の仕組みづくりも必要です。

I-2-(7) 選択決定力

- ⑥ 選択決定にあたって足りない情報がないかどうかを確認する。またメリット、デメリットを整理することができる。
- ⑦ 選択決定をすることで、望ましい目的・状態を明確にすることができる。

選択決定とは、自分にとって望ましい目的・状態を思い描いて、そこに到達する手段の中で最も効果的で、犠牲が少ないものは何かを考えることです。それぞれの選択決定を正しく行うことができるかどうかは、あなたの生活や仕事の成果などに大きく影響します。

I-2-(8) リスク分析力

- ⑧ 想定される具体的リスクを整理することができる。
- ⑨ リスクが発生しないための対策を検討し実施することができる。また、リスクが発生すると想定される原因についての対策も行うことができる。
- ⑩ リスクが発生した場合の対策を明確にすることができる。

計画を立てたがうまくいかなかったということは誰にでもあります。理由としてリスクについて検討していなかったということがあげられます。リスクとは、計画の実現が不

可能になったり、計画を大きく変更せざるを得なくなるような障害のことをいいます。

I-3 Act : 実行力

人は、行動・実行することによって、はじめて環境を変えることができますが、そうしたやすいものではありません。目標を明確に認識し、それに向かって具体的な方策を検討するということによって行動・実行力を高めることは可能です。

I-3-(9) 実行力

- ① 最終到達目標を明確化し、自覚することができる。
- ② 目標達成に必要な要素（必要条件）を明確にし、その要素をクリアするための具体的な行動計画（スケジュール、予算を含む）を立てることができる。
- ③ 実行過程において想定外のリスクへの備えも準備することができる。

行動・実行は、感情ややる気といった内側からの情熱ももちろん重要ですが、実現するためのステップをしっかりと踏まなければ、その可能性は低くなってしまいます。実行することは、最終のアウトプットでもあり人間の活動には大変重要なものです。

II Knowledge : 知識・理解

社会に貢献する、社会で活躍する、良い仕事をする人達が持つ知識、ハンドリングする情報量は、多岐にわたり膨大です。重要な事は、知識・情報をただ頭に記憶するのではなく、自分の頭で考え咀嚼し、自分の行動に活かせるものとして、知識を理解することです。

KK2 では、大学専門学校であまり教えられていない、また就業後の企業内教育人材育成においてもあまり取り上げていないテーマを基本に、教材コンテンツ開発をすすめており、以下のカテゴリで整理分類しています。

II-(10) ビジネス

ビジネスパーソンとして、ビジネスや社会貢献活動に必要な知識を理解する。

II-(11) 法律

ビジネスパーソンとして、必要不可欠な法律を理解する。

II-(12) 健康

自分自身および身の周りの人々の健康な生活に必要な知識と行動を理解する。

II-(13) 生活・文化

他人を尊重し助け合い、社会全体のことを考えしなやかな暮らしを目指す。

Ⅲ Skill : 技能

社会に貢献する、社会で活躍する、良い仕事をするビジネスパーソンは、日々数多くの人と出会い、信頼関係を築き、情報を的確にハンドリングします。そこには、信頼関係のベースとなるマナー、デジタルネイティブといわれる IT スキル、データ整理のスキル、等の技能が駆使されています。KK2 では、大学専門学校においても、就業後の企業内教育においてもあまり取り上げていない技能の教材コンテンツ開発をすすめており、以下のカテゴリで整理分類しています。

Ⅲ-(14) ビジネスマナー

多様な人々で構成されている社会で、スムーズにコミュニケーションを取るための基本的なルールであるビジネスマナーについて体得する。

Ⅲ-(15) ビジネススキル

ビジネスをうまく遂行するために役立つ思考方法やコミュニケーション方法などのスキルを体得する。

Ⅲ-(16) IT スキル

ビジネスに不可欠な IT に関するスキルを体得する。

Ⅲ-(17) マネジメントスキル

組織やチームをマネジメントし目標を実現できるスキルを体得する。

キャリア教育番組「エキスパート・スタジオ」 ～社会で活躍する人のしごと力を学ぶ～

さまざまな分野の職業で活躍するエキスパートをゲストに迎え、「しごと力」「仕事とは」「働く喜びとは」などについて考え学ぶ、インタビュー形式のキャリア教育番組です。ゲストは社会人 10 年目程度の若い世代と、定年退職後に社会の課題解決に活躍するシルバー世代の方々。エキスパートをロールモデルとして、そのコンピテンシーに気づき、自分なりに実践することで、その行動パターンを身に付けていく・・・等しごと力向上のきっかけをつかむことができる番組です。2011 年度は、霞が関ナレッジスクエアの事業協賛メンバー等の推薦も受け、様々な職種の若手リーダー 6 人程度をゲストに番組を制作・ライブ配信を行い、オンデマンドコンテンツとしても公開する計画です。

<http://www.kk2.ne.jp/kk2library/expertstudio/index.html>

コンピテンシー・チェック

～「Feel」「Think」「Act」あなたのコンピテンシーをチェック～

KK2 では、各職業に共通のコンピテンシー（社会で活躍する人の行動特性）を研究し、「Feel＝人間関係力」（自己認識力、感情マネジメント力、共感力、コミュニケーション力）、「Think＝問題解決力」（状況把握力、原因究明力、選択決定力、リスク分析力）、「Act＝実行力」（実行力）の3カテゴリ、9項目に整理しました。コンピテンシー項目毎に開発された課題映像（ドラマ）を視聴し、自分ならどう考え行動するのかを記述後セルフチェックを行います。自分自身を理解し、必要な意識変革やのぞましい行動などを理解するとともに、よりよい行動特性を身に付けていくことを目指すチェックシステムです。2011年度は従来同様、単独のシステムとしての利用に加え、コンピテンシー・チェックを学習の入り口とし、「エキスパート・スタジオ」や「しごと力向上ライブラリ」などの学習コンテンツとの連携に取り組む計画です。また、引き続き一般公開に加え、大学の正規授業や研究授業等での利用にも協力していきます。

<https://el.vblms.jp/nime/index.html>

「しごと力向上ライブラリ」

～いつでもどこでも学べるしごとに必要な「Skill」「Knowledge」～

“学力”を学ぶ学校では充分教えられていませんが、社会に出て仕事に就くと必要とされる”しごと力”「Skill」「Knowledge」をテーマに、毎月一単元 WEB コンテンツを開発し、オンデマンドで学習できるライブラリとして提供しています。ビジネスマナーやビジネススキルなど、新入社員はもちろん様々な職業のビジネスパーソンに役立つ教材を公開しています。（2011.3.25 現在 59 講座 160 単元）基本的にどんな組織にも属していない弱い立場の人でも、学ぶ意欲さえあればだれでもどこでもいつでも学べることを応援するサイトとして運営。加えて、大学のキャリアセンターや図書館、新入社員・中途社員教育に余裕がなくなった企業、未就業者、失業者等の就業支援訓練事業者等が、利用者・受講者に、当該機関自前の教育プログラムを補完するセルフ学習教材として紹介・活用することにも対応しています。2011年度も雇用状況、産業構造、若者の就業力などに対応した教材を毎月開発し公開していきます。

<http://www.kk2.ne.jp/kk2library/videobrowser/index.html>

「KK2 カウンセリングプログラム」（初回無料）

～キャリアについてカウンセラーが相談に乗ってくれます～

そもそもカウンセリングとは「言語的および非言語的コミュニケーションを通して、相

手の行動の変容を援助する人間関係（「カウンセリングの理論」 國分康孝著）」であり、カウンセラーとクライアント（来談者）の間で行われる相談・援助等にかかわる人間関係のことをいいます。

KK2 のキャリアカウンセリングは、キャリアに的を絞り、自分のキャリアについて悩むビジネスパーソン、これから就職を控えている学生など、キャリアに関する悩みについてプロに相談できるサービスを行っています。2011 年度は前年度の火曜日と木曜日の週 2 日実施体制から、新たに NPO 法人日本キャリア開発協会（JCDA）の協力を得て、月曜日から金曜日の週 5 日体制に拡充します。また、霞が関ナレッジスクエアのアカデミックメンバーや事業協賛メンバーの要望に応じて特別カウンセリングを行うことにしています。

「KK2 しごと力道場」（2011 年度新規事業） ～しごと力に磨きをかける他流試合～

KK2 では、産学官の様々な領域で活躍するビジネスパーソンを対象に、根源的なテーマについてディスカッション、ディベートを行い、「自分で考える力」を養うことを目的とした「KK2 しごと力道場」を実施します。初年度（H23 年度）は第 1 期として、12 名程度の参加者を募集し、全 4 回程度のシリーズで開催。テーマは「組織にリーダーは本当に必要か?」「企業には社員を育てる義務があるのか?」など“あたりまえを疑う視点”に立ったものを提示。ディスカッションとディベートを組み合わせた構成にし、互いに切磋琢磨し深く学ぶ場として、また、異業種交流を通じて視野を広げる場として提供したいと考えています。ディベート部分については収録を行い、Web コンテンツとして公開する予定です。

2) 都心で働く人々の交流ネットワーク ～KK2 文化プログラム～

2008 年春「霞が関コモンゲート」がオープンしましたが、官民に働く人をネットワークする取組みや、隣接する「霞が関ビル」や「東京倶楽部ビル」との地域連携も含め”街づくり”活動はほとんど行われていません。また「カスミガセキ」と聞くと多くの人は”堅苦しい””敷居が高い”というイメージを持ちますが、KK2 は都心で働く人の公民館として、親しみ易い霞が関を目指し、官民の人的交流や霞が関の街づくりを創出してまいります。

具体的には、年間を通じて「KK2 文化プログラム」を開催いたします。これは都心で働くビジネスパーソンに気軽に文化を楽しむ機会と、文化を通じた人と人との交流の場を提供するプログラムで、霞が関コモンゲートの賑わいづくりにも一役買います。文化庁の「霞が関から文化力」事業として認定され文化庁の Web サイトからも広報されています。主なプログラムは次の通りです。

「ワイン講座」

ワイン伝統国であるヨーロッパはもちろん、新興国、そして日本などをテーマに、生産地やぶどうの種類、ワインの製造方法など初心者向けにわかりやすく解説するワイン講座。講師による講義だけでなく、ワインの試飲や交流会を通して楽しいひとときを企画し、ビジネスパーソンが気軽にワインの知識を身につけられる機会、異業種の交流の場の提供を行います。

「霞が関寄席」

若手の落語家、講談師に高座に上がる機会を提供。ストレスの多いビジネスパーソンが伝統芸能に触れ、また笑いでストレス発散、リラックスする場を提供します。月一回開催。

「霞が関ミュージックサロン」

世界で活躍する日本人アーティストの一時帰国に合わせたコンサートや、日本の伝統芸能に親しむ機会を提供。演奏者と参加者との交流会を通じ、道を究めたエキスパートの”生き方”にも触れることができます。

「霞が関シアター」

文化・科学・教育分野のインディペンデント系（自主・独立）映画の上映会を行います。上映会後は、制作スタッフとの交流や映画をテーマにしたトークイベント等の企画も行います。

3) 産学官民の交流による知の創造

～イノベーションプログラム～

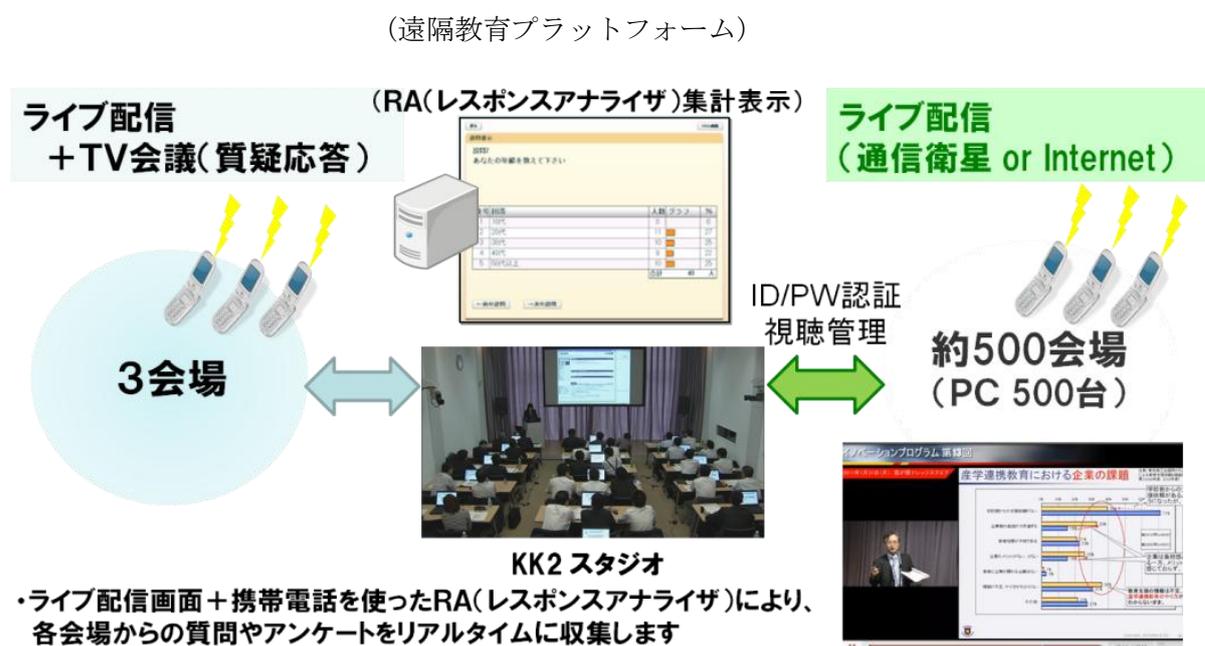
KK2の周辺は、中央省庁に働く人、大学教育関係者、民間企業に勤める人など、さまざまな人々が集まります。そこでそれらの人々の知（Knowledge）を結集することで、あらたな「知」を創りだし、活力のある日本の再生に貢献することをめざし、大学教育改革をテーマとした「イノベーションプログラム」を企画開催しています。これまでKK2の遠隔教育プラットフォームを最大限活用し全国の国公私立大学を繋ぎ、大学における経営・教育・業務等の改革、「大学間」・「大学と企業」・「大学と自治体」等の連携による大学改革や「就業力支援」をテーマに開催。産学官連携による研究成果やGood Practiceの紹介等を行ってきました。2010年度の参加者アンケートによればテーマとして「社会から求められる大学」「大学の地域貢献／地域活性化」「大学間連携」「社会人向け教育」などの要望が高く、2011年度はこれらを参考に、ますます悪化している「学生の就業状況」や3月

11日に発生した東北地方太平洋沖地震等で求められる「大学の都市復興支援」等をテーマに年5回程度実施する計画です。

4) 遠隔教育プラットフォームの普及 ～ライブ配信と学習ライブラリの拡充～

KK2では、キャリア応援プログラム、KK2文化プログラム、イノベーションプログラムに、全国及び全世界の遠隔地の方々が参加できる遠隔教育プラットフォームを整備し、ライブ配信を実施しています。参加者はPCもしくは携帯端末で受講し、レスポンスアナライザ機能を使って質問し、アンケートやテストに回答するなど、双方向の遠隔教育を実践しています。

またKK2が主催するプログラムは原則すべて収録し、WEBコンテンツとしてサイトで公開しライブラリ化しており、いつでもどこでも学べるオンデマンド学習環境の拡充を進めています。



5. ホームページ・メールマガジン等による情報発信

霞が関ナレッジスクエアは教育や人材育成分野における社会的プラットフォームとして Web サイトとメールマガジンによる事業案内、学習コンテンツ公開、事業への参加受付等を行う。

霞が関ナレッジスクエアWebサイトの運営

今年度は、霞が関ナレッジスクエア開設以来運営している Web サイトのリニューアルを行う。「KK2 で学びたい」「KK2 とコラボレーションしたい」「KK2 を利用したい」という3種類の利用者ごとに整理し、情報提供を行う。

「KK2 で学びたい」は、個人を対象に社会人として働く際に求められるコンピテンシー(行動特性)を Feel=「人間関係力」、Think=「問題解決力」、Act=「実行力」に、Knowledge=「知識」、Skill=「技能」を加え、しごと力カテゴリとして分類し、それぞれのしごと力カテゴリごとに必要なコンテンツ情報を提供する。

また、「KK2 とコラボレーションしたい」は、主に企業・組織を対象に、KK2 を活用して、KK2 と連携することによって可能になる企業内・組織内の人材育成・情報伝達について紹介。「KK2 を利用したい」は、主に企業・組織を対象にレンタル施設の案内・利用ガイド、メンバー制度の案内、エキスパート倶楽部の案内・利用ガイドなどの情報公開を行う予定である。

メールマガジン「エキスパート通信」の発行

毎週金曜日に霞が関ナレッジスクエアのメールマガジン「エキスパート通信」を発行する。メールマガジンは無料会員の Web 会員も含めて会員全員に発信しており、事務局と会員を結ぶ定期的な連絡ツールの役目を果たしている。昨年度10月からは、HTMLを使用したビジュアルに訴えるメールマガジンに変更。巻頭言「メッセージ from kk2」「キャリア応援プログラム」「文化イベント」「交流カフェ エキスパート倶楽部」「事務局からのお知らせ」で構成。年間発行予定数：約 50 回

オリジナルハイビジョンコンテンツ「江戸TOKYO散歩」の公開

霞が関ナレッジスクエア開設記念事業として制作した『「江戸 TOKYO 散歩」～広重「名所江戸百景」と東京の今～』。昨年度までに、中国語版(繁体字・簡体字)英語版・韓国語版が完成。継続的に、海外の人を含め公開の場を広げる活動を行う。今年度は、昨年度に引き続きテレビのネットサービス「アクトビラ」(運用：株式会社アクトビラ)でハイビジョン映像を無料配信中。また霞が関ナレッジスクエアの Web サイトでも公開している。

ビジネス教材検索 しごと力向上教材ガイドの運営

「しごと力向上教材ガイド」は、「ビジネス教材検索」と名称を変更し、教材情報提供機関、AVCC 賛助会 しごと力向上部会の会員等の新着教材を DB に登録する活動を続けている。2011 年度の事業としては、しごと力向上ライブラリ同様、引き続き、戦略的・大学連携のハブとして、大学向け教材の拡充に取り組んでいく。

- ・情報提供協力機関数：(200 機関)
- ・登録教材数：(20,000 件)

6. 運営委員会とプログラム開発委員会

霞が関ナレッジスクエアの事業は、有識者等で構成する運営委員会とプログラム開発委員会を設け運用する。

霞が関ナレッジスクエア運営委員会

産学連携分野の有識者参画による運営委員会を設置し、定期的に霞が関ナレッジスクエアの運営状況について報告する。

委員： 渡部 俊也 氏（東京大学先端科学技術研究センター 教授）
福田 猛 氏（一般社団法人大学技術移転協議会 事務局長）
笹月 俊郎 氏
（独立行政法人科学技術振興機構（JST）イノベーション推進本部 知的財産戦略センター戦略企画担当）
霞が関第 7 号館 PFI 株式会社（新日鉄エンジニアリング株式会社、大成建設株式会社、東京建物株式会社、株式会社久米設計）
伊藤 健二 氏（慶應義塾大学 大学院政策・メディア研究科 特別研究准教授）
伊庭野 基明 氏（グローバルキャリアカウンセラー ビジネスコーチ）
久保田 了司（財団法人高度映像情報センター 霞が関ナレッジスクエア担当理事）

オブザーバー：文部科学省大臣官房会計課 施設管理班

事務局：(財) 高度映像情報センター 霞が関ナレッジスクエア運用事務局

開催予定：年 2 回。第 1 回 9 月、第 2 回 3 月

霞が関ナレッジスクエア プログラム開発委員会

新規プログラムの企画・開発について専門家等の有識者によるプログラム開発委員会を設置し、年 3 回程度検討会を行う。

委員： 杉本守孝氏（社団法人日本能率協会 経営研究主幹）
安藤 孝治 氏（株式会社 ANA 総合研究所）
伊庭野 基明 氏（グローバルキャリアカウンセラー ビジネスコーチ）
久保田 了司（財団法人高度映像情報センター霞が関ナレッジスクエア担当理事）
伊藤 健二（慶應義塾大学 大学院政策・メディア研究科 特別研究准教授
霞が関ナレッジスクエア産学連携担当主席研究員）
華井 弘子（エキスパート倶楽部ゼネラルマネージャー）
その他、テーマに応じて随時委員を設け、都度出席を要請する。

事務局：財団法人高度映像情報センター 霞が関ナレッジスクエア運用担当
開催予定：年 3 回（5 月、10 月、2 月）

7. メンバー制度

メンバーの種類は、大きくは事業協賛メンバー（霞が関ナレッジスクエア事業に賛同する団体並びに事業に賛同するとともに施設等のサービスも利用する団体）、一般法人メンバー（施設等のサービスも利用する団体）、Web 会員となっており、事業協賛メンバーは、企業・業界団体、NPO 法人、大学・専門学校等、個人が対象となる。

① 2011 年度は、以下の会員数獲得を目標とする。

- ア. 事業協賛メンバー（企業・業界団体）： 1 口 120,000 円/年 60 機関（現在 32 機関）
- イ. 事業協賛メンバー(NPO 法人）： 60,000 円/年 20 機関（現在 2 機関）
- ウ. 事業協賛メンバー（大学・専門学校等）： 60,000 円/年 20 機関（現在 11 機関）
- エ. 事業協賛メンバー（個人）： 12,000 円/年 500 人（現在 52 人）
- オ. 一般法人メンバー（企業）： 1 口 120,000 円（現在 6 機関）
- カ. Web 会員： 無料（登録制） 10,000 人（現在 5,180 人）

※現在の機関数は平成 23 年 3 月末現在のものです。

② 有料会員へのサービス提供

- ア. 霞が関ナレッジスクエアのスタジオ等の施設利用についてメンバー料金にて提供
- イ. 霞が関ナレッジスクエアの常設パソコン等の設備について無料で提供
- ウ. 霞が関ナレッジスクエアで開催する自主プログラムの会場参加についてメンバー割引
- エ. 霞が関ナレッジスクエアからライブ配信する自主プログラムのインターネット参加サービス
- オ. 霞が関ナレッジスクエア Web サイトで公開している学習教材について、固定 IP アドレス登録により、個人認証なしで簡単に視聴できるサービスを提供するなど学習教材

の提供

カ. 霞が関ナレッジスクエア Eラーニング「しごと力向上講座」の提供

霞が関ナレッジスクエアメンバー（アカデミックメンバー、協賛メンバー）向けに提供を開始したEラーニングサービス。これから社会に出る人や若手ビジネスパーソンを対象に、仕事に必要なビジネスマナーやスキルを学べる教材を「しごと力向上ライブラリ」からピックアップしたものに加え、当財団オリジナル教材「個人情報保護の基本」（2シリーズ）をパッケージ化。2011年度も引き続き、メンバー向けにサービスを提供していく。

③ 無料会員（Web 会員）へのサービス提供

ア. Web 会員登録者には ID、パスワードを発行し、霞が関ナレッジスクエアWEBサイトで公開している学習教材の視聴やセミナーの参加申込を可能とする。

イ. 霞が関ナレッジスクエアからライブ配信する自主プログラムのインターネット参加サービスを提供する。

8. レンタルスペース事業

① スタジオの運用

霞が関ナレッジスクエアのメンバー（事業協賛メンバー、一般法人メンバー）並びに一般（非メンバー）に対して、セミナー、会議等にスタジオの貸出を行う。

開業時間：平日 8：30～21：30（土曜日予約制）

年間利用時間・利用者目標：1,000時間、6,000人

② ラウンジの運用

霞が関ナレッジスクエアのメンバー（事業協賛メンバー、一般法人メンバー）、個人メンバー員）にラウンジの常設パソコン席の貸出を行う。

開業時間：平日 9：00～20：00

年間利用者目標：2,500人

③ エキスパート倶楽部の運用

霞が関コモンゲートアネックス1階のエキスパート倶楽部はスタジオで行う事業のサテライト会場として一体運用するほか、一般や会員を対象とした常設パソコン席の貸出や持ち込みパソコンへの無線LANサービスの実施する。

開業時間 平日 11：30～15：00（平日の18：00以降、土日祝日については予約制貸切のみ対応）

年間利用者目標：15,000人

9. 各事業のスケジュール

① KK2カウンセリングプログラム

対象者：大学生～若手社会人（概ね20歳～35歳）

申込方法：霞が関ナレッジスクエアwebサイトの申込フォームより

時間：1回約45分（月～金 16：00～19：00 各4コマ）

費用：基本的に1人1回 無料

② ワイン講座

2011年度日程は以下の予定です。

第1回 7月「お薦めスパークリングワイン」

年々人気の各国のスパークリングワインについて紹介。スパークリングワインの製法や種類、夏に向けてのスマートな楽しみ方などについて解説。

第2回 10月 「ワインとチーズの組み合わせ」

これまでも希望が多かったワインとチーズの組み合わせを紹介。ワインと相性の良いチーズの選び方、ホームパーティで楽しむチーズヴァリエーションなどについて解説。

第3回 2月 「ニューワールドのお薦めワイン」

ニューワールドといわれる南アフリカ、ニュージーランドなど、その国ならではのぶどう品種から造られるお薦めのワインについて解説。

*各回とも、会場はエキスパート倶楽部。募集人数予定は30名程度を予定。

*講師：華井弘子

（霞が関ナレッジスクエア エキスパート倶楽部 ゼネラルマネージャー）

協賛メンバー向けワイン講座の開催

協賛メンバーの組織内福利厚生の一助として、要請があれば組織単位でのワイン講座の開催を実施する。講義内容については、要望によってカスタマイズすることが可能。費用等については実費程度を想定。

*会場は、エキスパート倶楽部。20名程度の着席式。

*講師：華井弘子

（霞が関ナレッジスクエア エキスパート倶楽部 ゼネラルマネージャー）

④ 霞が関寄席

2011年度日程は以下の予定です。

- 第1回 4月27日(水) 立川談慶 独演会
- 第2回 5月25日(水) 馬吉・駒与志二人会
- 第3回 6月24日(金) 鬼丸・小せん 二人会
- 第4回 7月27日(水) 立川談慶 独演会
- 第5回 8月26日(金) 神田織音 講談会
- 第6回 9月30日(金) 鬼丸・小せん 二人会
- 第7回 10月26日(水) 立川談慶 独演会
- 第8回 11月30日(水) 金原亭 駒与志
- 第9回 12月16日(金) 鬼丸・小せん 二人会
- 第10回 1月25日(水) 立川談慶 独演会
- 第11回 2月24日(金) 神田織音 講談会
- 第12回 3月23日(金) 鬼丸・小せん 二人会

⑤ ミュージックサロン

2011年度も株式会社MuCuL(ミュウカル)との共催で年間3回程度実施する計画です。

第1回 7月1日(金)

手の歌コンサート米内山明宏(手話弁士・手話語り)with 佐藤慶子

第2回 10月

猶井正幸&sun ホルン&ヴァイオリン・デュオ

第3回 12月

田中直子&木越洋 ヴァイオリン&チェロ・デュオ

⑥ 霞が関シアター

2011年度日程は以下の予定です。

第1回 5月「月あかりの下で～ある定時制高校の記憶～」

*23年3月14日の上映会が東北地方太平洋沖地震の影響で急遽延期

第2回(8月)、第3回(11月)上映会候補作品

「ただいま それぞれの居場所」「風の中で～むしのいのち、くさのいのち もののいのち～」

(2) 審査事業

プライバシーマーク認定審査支援業務

(財)日本情報処理開発協会(JIPDEC)及び(財)放送セキュリティセンターが行なっている、個人情報適切に取り扱っている組織を一定の基準で認定し、プライバシーマークの使用を許諾する制度に係る審査業務を支援します。

調査研究事業

(1) 双方向遠隔講座の実践研究

霞が関ナレッジスクエア事業で実施する受講者参加型遠隔講座の実践を基に、多拠点に散在する参加者が意見を出し合い事例を共有し、感じる(Feel)考える(Think)行動する(Act)ことに結びつく、教育の内容(Contents)手法(Learning System)運営(Operation)について、実践的な研究を進めます。

(2) 帰宅困難者支援「AIDステーション」の研究

大震災等有事の際、都心の帰宅困難者支援を行う「AIDステーション」活動を行うために準備を進めていましたが、2011年3月11日計らずも発生した「東北地方太平洋沖地震」において、帰宅困難者にKK2を開放し、約300名の方々を支援しました。この経験をもとに、明らかになった課題を踏まえ、より有効な支援ができるAIDステーションを目指し、持つべき機能、官民地域連携を強化等研究し、有事に備えてまいります。

教育企画事業

(1) 映像ソフトの企画・開発

企業や各種団体・機関等で使用される広報・教育・技能訓練などの教材をビデオ、CD-ROM、DVDといった各種メディアで開発提供する。例年制作しているシリーズ教材や単発のオーダー教材のほかに、インターネットや遠隔教育で使用されるオンデマンド教材などのデジタルコンテンツの制作も行ないます。

(2) 情報セキュリティ・個人情報保護研修

自治体や民間企業の情報セキュリティならびに個人情報保護に関する研修を行ないます。個人情報保護の意識研修から顧客の環境に合わせたケーススタディ演習まで、さまざまな状況に応じた研修を実施します。

また、組織内の個人情報保護責任者(CPO)及び個人情報保護監査責任者に対し、JIS Q15001に準拠した管理者向け研修を実施します。

コンサルティング／業務支援事業

(1) 自治体情報化推進支援業務

自治体の情報化推進にあたり、情報化計画の策定や情報基盤整備、システム構築、ネットワーク構築等に係る企画・設計から設計監理までをトータル的なコンサルティングを行ないます。

(2) 防災・消防関連コンサルティング業務

国及び自治体の防災通信システムならびに消防機関の有線及び無線通信システムに関する、計画策定・設計業務・設計監理業務などを行ないます。

(3) 教育・文化施設や企業等の施設におけるコンサルティング業務

公共図書館、生涯学習センター、教育センター、学校ならびに企業内教育施設等での情報システム・教育システム導入計画、リニューアル計画等に関連した基本計画、設計、運用計画、維持管理計画の策定業務を行ないます。

(4) 情報セキュリティ／プライバシーマーク取得コンサルティング業務

情報セキュリティポリシー策定ならびに運用に関するコンサルティングおよびプライバシーマーク取得支援及び個人情報保護法対応に関するコンサルティングを行います。また、情報セキュリティを含む内部監査支援及び外部監査の実施により、外部からの脅威、内部の脆弱性などのリスクを分析し、不適合事項の改善提案や規程類の見直しを含めたコンサルティングを行ないます。

(5) 情報システム等運用支援業務

公共施設をはじめ各種団体・企業に設置されている各種AVシステムやコンピュータネットワークシステムを対象に、オペレーションから機器の管理・日常点検業務及び運用業務の支援を行なう。また、遠隔教育・eラーニングシステムの運用と関連コンテンツ開発の支援業務を行ないます。

国際協力事業

(1) テレビ会議システム運用業務

独立行政法人国際協力機構(JICA)が運用するTV会議システムの機能及び可能性を最大限に活用し、より効果的な遠隔技術協力を実現するため、遠隔技術協力に係る一連のシステムの運用業務を行ないます。

JICA 本部に要員を配置し、JICA 本部 TV 会議室、国内拠点、在外拠点に設置された TV 会議システムの運用、貸出用 TV 会議装置類を利用した外部施設を接続した番組配信のための運用、及び一連の共通業務を含む管理を行ないます。

以上